

第12回菱肥会総会開催

-2011 「食と農の架け橋」 Ver.2

全国的に秋晴れに恵まれた10月16日(木)、経団連会館(東京都千代田区大手町)に於いて、全国からの会員に加え、賛助メーカー、業界関係者、三菱商事等200名を超える多数の参加を得て、第12回菱肥会総会が開催された。三菱商事(株)汎用化学品本部長 宮内孝久氏の冒頭挨拶“菱肥会と三菱商事は運命共同体”に引き続き、9月1日付で肥料ユニットマネジャーに就任した水野和也氏による菱肥会会長挨拶“歴史に裏打ちされた肥料バリューチェーンの構築”、8月22日の菱肥会サミットの役員会において第5代菱肥会全国連合会理事長に選出された、豊田肥料(株)豊田富士雄社長による理事長挨拶“進化を続ける三菱商事肥料グループ”があり、会場は既に熱気を帯び始めた。



事業報告に次いで催された会員褒賞では、88社の受賞会社を代表して、(株)日の丸産業社飯田進作社長に褒賞と感謝状が手渡され、飯田社長より“菱肥会の更なる発展に邁進する”旨の力強い謝辞があった。引き続き当社上杉登社長による菱肥会の今後3年間の事業目標“V-2011 食と農の架け橋 Ver.2”の披露の後、農水省農業生産支援課長の雨宮宏司氏から、当日国会を通過したばかりの“燃料肥料高騰化対策”のホットな報告があり目を離すことが出来ない議事の進行となった。



記念講演:「農業イノベーション」財部誠一氏



経済ジャーナリスト財部誠一氏による基調講演「農業イノベーション」では、出張中のニューヨークで体験した金融恐慌のホットな話題に触れながら、農業の自己改革に取り組む農業生産者が出現し始めており農業現場を基点においた改革の必要性の提言があった。そして、基調講演後、食品流通業界、農業界、種子業界、行政、マスコミ、肥料業界からの有識者7名を招いたパネルディスカッションが催された。パネラーのイノベティブな事業の取組みの紹介に次いで、“肥料高騰への対応”並びに“地方活性化への示唆”などのテーマを通して「農業イノベーション」に対する活発な意見交換がなされた。

懇親パーティーでは、三菱商事(株)化学品グループCEO常務執行役員清田正昭氏から“三菱商事では肥料メーカー5社を統合したエムシー・ファーマティコム(株)が誕生したが、全社でも横断的に農業への取組をスタートさせた。菱肥会の新たな行動目標である「現場のニーズにあったサービスの提供」「JGAPの普及・促進」「農商工連携への取組」「三菱商事ネットワークとの連携」の4つのテーマは時宜を得たものである。”との総括挨拶があった。菱肥会副理事長(株)児藤商店児藤雅俊氏の乾杯挨拶では、“全会員が喜んで参加する菱肥会への発展”とあり、その後12年の長きに亘り多大なるご尽力を賜った前理事長宮本



(次ページへ続く)

(前ページより続く)

商事(株)宮本和一会長への記念品贈呈では、宮本前理事長より“菱肥会の^{いやさか}弥栄を祈念する“の励ましがあり、会場は一層盛り上がりを見せた。中締めでは、菱肥会副理事長(株)丹波屋小林利光社長の音頭による菱肥会の更なる発展を祈念した全参加者による一本締めがあり、7時間を超える第12回菱肥会総会は恙無く終了した。菱肥会の皆様方のご支援、ご協力に改めて感謝を申し上げます。

パネルディスカッション(敬称略)

【コーディネーター】

財部誠一：朝日テレビ“サンデープロジェクト”でお馴染みの経済ジャーナリスト「ハーベイロード・ジャパン」を主催し各種の政策提言を行う

【パネリスト】

木内博一：千葉県北総台地にて農事組合法人「和郷園」を18年前に創設。その後冷凍カット野菜工場を立ち上げ、最近では自然循環型農業を導入するなど農業イノベーターとしての存在感はマスコミも注目。

新浪剛史：(株)ローソン取締役社長として、「それぞれのマチにあったローソン作り」を目標に地域密着型のコンビニ展開を図る。

竹下達夫：ミレミアムを機会にパイオニア・エコサイエンス(株)を立ち上げ、消費者に訴える農産物の種子開発に挑戦。代表作「シシリアンルーージュ」は料理用トマトに新風を送り込む。

熊谷敬：経済産業省 地域経済産業政策課長 地方の復活は農業の活性化からと、農業と商工分野の中小企業の連携を図る新たな施策「農商工連携」を行政の立場から支援する。

昆吉則：(株)農業技術通信社取締役社長として月刊誌「農業経営者」を通じ、農業の自立と農業経営者への脱皮を主唱。

豊田富士雄：豊田肥料(株)創業145年の老舗の肥料商。常に時代の潮流に挑戦し、静岡県農業の近代化に貢献。健康茶「^{きつぷくちや}吉福茶」では、農商工連携を実践。

水野和也：三菱商事(株)海外合成樹脂事業の経験を生かし、肥料ユニットマネジャーとして肥料バリューチェーンの農業分野への更なる貢献をリードする。

経済ジャーナリスト 財部 誠一

1956年生まれ。
慶応義塾大学卒。
野村證券退社後出版社勤務を経て
フリーランスジャーナリストに。
経済政策シンクタンク
「ハーベイロード・ジャパン」を
主催し各種の政策提言を行なっている。

新報会

農事組合法人「和郷園」
代表理事 木内 博一

私たちが取り組む自然循環型農業
活動理念～生産者の自律～健康・環境・調和

菱肥会

株式会社 ローソン
代表取締役社長 新浪 剛史

企業理念
『私たちは“みんなと暮らすマチ”を
幸せにします。』

菱肥会

パイオニア エコサイエンス株式会社
代表取締役社長 竹下 達夫

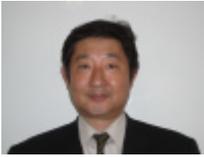
消費者と農業生産者の新しい価値を創造する

菱肥会

(次ページへ続く)

経済産業省地域経済産業グループ
地域経済産業政策課長 熊谷 敬

農商工連携の促進のために



趣旨
地域経済活性化
+
農業の活性化



株式会社農業技術通信社
代表取締役社長 昆 吉則





豊田肥料株式会社
代表取締役社長 豊田 富士雄



美味しさ	クセがなくまるやか
色	透き通った黄金色
香り	気品ある香り
成分	没食子酸を純粋培養
安全性	純粋発酵により一煎目から安心して飲める



全 豊田肥料株式会社
TEL:0538-42-4111(代)



三菱商事株式会社
肥料ユニットマネージャー 水野 和也

肥料のバリューチェーン



```

    graph LR
      A[資源] --> B[安定輸入 MC]
      B --> C[賛助会員メーカー]
      C --> D[MA C]
      D --> E[菱肥会 会員]
      E --> F[幅広く、日本農業に貢献します。]
  
```



テーマ1 「肥料高騰対策」

基幹資源である肥料の高騰が構造的なものであるとの前提に立ち、行政・肥料業界が共同で立ち上げる基金の創設を巡り、活発な意見が交わされた。「農産物価格が低水準で推移しているなか、肥料価格高騰は農業界ばかりでなく肥料業界の努力の限界に近いものがある。」「政府の支援は不可欠であるが、全ての農民が享受できるシステムが必要。」「肥料高騰は農業改革の絶好の機会であり、コスト削減のための種子開発・新農法の開発に注力すべき。」「イノベーションは汗の結晶であり、行政に頼らず民間の知恵を絞るべき。」等々農業の本質論にも迫る議論がなされた。

テーマ2 「地方活性化」

地方の諸課題は農業問題と同等であるとの前提に立ち、各パネラーから様々な提言があった。「地方の活性化には、五穀豊穡を祝うお祭りの大復活が効果ある」「地方の目抜き通りはシャッター街で閑散としているが、元気な店といえば“ローソン”だけである。地域密着型店舗展開を目標とする“ローソンのマチづくり”に期待したい。」「経産省は“新連携”“地域資源”の施策で地方活性化に貢献してきたが、農産物付加価値化を実現することで農業の活性化にも結びつけることが重要であると判断し、農水省と連携して農商工連携等促進法を施行した。地域の中小企業と農業法人との連携を図る内容であり、既に60を超える優良案件が認可された。」「三菱商事も横断的な組織で農業イノベーションを検討している。」「地方活性化と農業イノベーションとは関連性があり、このような異業種の集まりを農業シンクタンクに育てあげることも有効ではないか。」等々建設的な意見交換が交わされた。

「総括」

最後に財部先生から「パネラーの中には初めてお会いする方もおられたが、忌憚のない意見交換が出来たことは、コーディネーターとして大変喜ばしい限りである。農業は大きく奥の深い案件であるだけに、会場の会員の皆様との質疑応答を設けかけたが、時間の制約もあり残念であった。それにしても、肥料業界の方々の質の高さには感激した。」とのコメントがあったことを皆様にお伝えします。菱肥会総会では、パネラーの皆様のご紹介アナウンスをさせて頂きました。何とか無事に終える事ができ、総会終了時には多数の方からお声を掛けて頂きまして、有難うございました。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子